

カキの育て方

カキ・・・カキ科 原産地：東アジア

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生育サイクル					開花	果実肥大				収穫		
植え付け												
剪定	(2年目以降)											
肥料											寒肥を一回	
病害虫						ヘタムシ	ヘタムシ					

カキは、ビタミンAの効力を高めるカロチンをたっぷり含み、ビタミンCも多く、健康に良い果実です。

カキの育て方

■ 植え付け

カキは日当たりが良ければ、土質はほとんど選びませんが、品種により適地が異なります。古くからの在来種を入手して植えてもよいでしょう。

■ 受粉

花は、雌花だけをつけるもの、雌花と雄花の両方をつけるものがあり、雄花をつけない品種が多いです。多くの品種が多少とも単為結果性であり、渋ガキに比べ甘ガキはその性質が弱く、種子が入らないと生理落果が多くなったり、シブがぬけにくくなるような品種が多いです。

MEMO

単為結果性

受粉せず、種ができなくても実が大きくなる性質

生理落果

強風や病害虫の被害でないのに、花や実が落ちてしまうこと



●雄花

●雌花

カキの育て方

■ 摘蕾・摘果(てきらい・てきか)

雄花がつかない、あるいは少ないカキは、受粉せず6月上旬～7月上旬に多くの幼果が生理落果します。それを防ぐため、果樹の種類や樹齢などに応じて適度の結果量にするため、つぼみや果実を間引きます。

・摘蕾

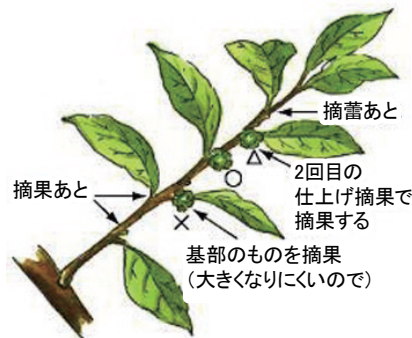
開花の15日程前までに行います。残す蕾の目安は、一結果枝当たり、3つの蕾は1～2個、4つは2個を残します。

・摘果

7月上旬に、一結果枝に一果を目安に残します。

摘果を行う理由

1. 品質のよい果実を作れます
2. 隔年効果を防ぎます
3. 新しい梢を保護します



MEMO

隔年結果

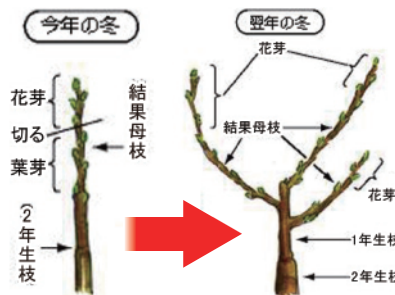
実の成り年(表年)と不成り年(裏年)が交互に現れること。

■ 剪定

2年目以降の冬に行います。太く元気のよい枝の頂部に花芽が形成され、8月に入っても伸びが止まらない徒長枝には充実した花芽が付きませんので右の図のように中切りします。

■ 肥料

11月～2月の間に1回、配合肥料を施します。また、鉢植えには12月～1月と8月に醗酵固形アブラカスを施します。



結果母枝を中切りすると、その年には果実がならず、翌年の結果母枝ができる。

